

5. 洋学史学会の歴史と現状

青木 歳幸

佐賀大学地域学歴史文化研究センター特命教授

表題につきⅢ部において報告した。第Ⅰ部は、石山洋氏による「蘭学資料研究会の発祥からふり返って」(『洋学史通信』25号所収)から、洋学史学会の前史である蘭学資料研究会の設立を紹介した。

昭和29年4月に、上野図書館(国立国会図書館支部)から『上野図書館紀要 第一冊』が刊行され、同月25日に、館は所蔵蘭書を一室に並べ、蘭学に関心を持つ学者約50名を招待し、内覧会を催した。一通り見終わったところで、上野図書館長(加藤宗厚)から出席学者に「この資料を今後どうするのがよいか?」と意見を求めた。その結果、蘭学資料研究会が緒方富雄氏を会長として発足することになった。

第1回研究会は、同年7月13日、上野図書館館長室で開催されその後役員体制も整えられ、同年12月13日-18日には、蘭学資料研究会主催『洋学ことはじめ展-蘭学の諸系列と幕府旧蔵本-』を丸善に於いて開催した。以後、第1回大会を、昭和33年8月20日に佐倉市第一高校で、第2回大会を昭和35年5月27日に東北大学で、第3回大会を昭和36年7月8日に横浜市立大学で、第4回大会を昭和37年5月13日に京都大学附属図書館で、第5回大会を昭和38年5月17-19日に長崎市・平戸市で開催した。

その後も毎年大会を各地で開催し、第20回大会を昭和54年4月21-22日に津山洋学資料館で開催した。昭和32年6月までは上野図書館参考課で事務を担当したが、組織上出来なくなり、以後は緒方会長の研究室に移った。『蘭研報告』は351号[昭和55年4月]まで刊行された。

第Ⅱ部、吉田忠氏の「洋学史学会の設立」(『洋学史通信』26号所収)より、蘭学資料研究会か

ら洋学史学会の成立を報告した。蘭学資料研究会(通称、蘭研)は、当時洋学に関心のある者にとっては研究交流の絶好の場であった。が、その蘭研も会長緒方富雄氏の逝去(平成元年3月31日)にともない、翌平成2年(1990)5月に正式に解散した。

蘭研会員を中心とする研究グループが、「西南雄藩の科学技術」の研究会や科研費などで、蘭学研究を続けており、蘭学研究に限らず、広く洋学研究のための学会を設立しようという機運が盛り上がった。そこで石山洋、矢部一郎、吉田忠各氏が設立の準備を行うことになった。洋学史学会の設立総会は平成3年(1991)6月30日、順天堂大学9号館1番教室で開催し、96名の参加を得て、初代会長に佐藤昌介氏を選出した。

第Ⅲ部は、洋学史学会の25周年の歩みを青木歳幸がまとめて報告した。佐藤昌介初代会長のもとで、平成3年(1991)12月8日(日)に順天堂大学にて第1回大会が、「洋学史の課題と展望」というシンポジウムとともに開催され、洋学史学会がスタートした。

歴代会長は、佐藤昌介(1991~93)のあと2代目会長が宗田一(1994~95)、3代石山洋(1996~97)、4代石山洋(1997~98)、5代栗原福也(1999~2000)、6代吉田忠(2001~02)、7代ミヒェル・ヴォルフガング(2003~04)、8代八耳俊文(2005~06)、9代平野満(2007~08)、10代大沢真澄(2009~11)、11代青木歳幸(2012~14、2014~16)、12代杵沢宣賢(2017~現在)と続いている。

以後、学会は、毎年、例会・総会・大会を開催し、年2回の『洋学史通信』を刊行し、共同研究を進めてきた。平成5年(1993)5月25日、待望

の『洋学』1(八坂書房, 菊判・上製, 248頁, 1993年, 在庫あり)を刊行することができた。以後, 5号までは八坂書房, 6号からは岩田書院で販売を担当し, 『洋学』25(平成30年5月刊行)まで継続して刊行した。

現杳沢宣賢会長のもと, 洋学史学会30周年記念事業として, 『洋学史研究事典(仮)』(編集長青木歳幸, 思文閣出版, 2021年刊行予定)の準備をすすめている。